

2次元以上の超立方格子上の

$$S = \frac{1}{2} \text{ XY 模型}$$

および XYZ 模型は
非自明な局所保存量をもたない

田崎晴明

Naoto Shiraishi and Hal Tasaki,
“The $S=1/2$ XY and XYZ models on the two or higher dimensional hypercubic lattice do not possess
nontrivial local conserved quantities” arXiv:2412.18504

背景

量子多体系の数理的な研究

厳密解

可積分系のみが対象

一般的な厳密な結果

可/非可積分系を区別しない

熱平衡化・量子カオスなど、非可積分系のみで期待される重要な現象・性質

$S = 1/2$ XYZ-h 量子スピン鎖は非自明な局所保存量を持たないことの厳密な証明 Shiraishi 2019

具体的で標準的な量子多体系のモデルが非可積分であること（既知の可積分系とは本質的に異なる性質を示すこと）が厳密に証明された初めての例

局所保存量の不在は重要で非自明な情報

可積分性と保存量との関係を解明する第一歩

非可積分系ならではの性質の解析のための第一歩

初步的な例

$$S = 1/2 \text{ XX 鎖} \quad \hat{H} = - \sum_{u=1}^L (\hat{X}_u \hat{X}_{u+1} + \hat{Y}_u \hat{Y}_{u+1} + h \hat{X}_u)$$

$h = 0$ の場合 Lieb, Schultz, Mattis 1961

Jordan-Wigner 変換により自由フェルミオンと等価
多くの局所保存量が存在 $[\hat{H}, \hat{Q}_k] = [\hat{H}, \hat{Q}'_k] = 0$

$$\begin{aligned}\hat{Q}_1 &= \sum_{u=1}^L \hat{Z}_u & \hat{Q}_2 &= \hat{H} = - \sum_{u=1}^L (\hat{X}_u \hat{X}_{u+1} + \hat{Y}_u \hat{Y}_{u+1}) \\ \hat{Q}_k &= \sum_{u=1}^L (\hat{X}_u \hat{Z}_{u+1} \cdots \hat{Z}_{u+k-2} \hat{X}_{u+k-1} + \hat{Y}_u \hat{Z}_{u+1} \cdots \hat{Z}_{u+k-2} \hat{Y}_{u+k-1}) \\ \hat{Q}'_k &= \sum_{u=1}^L (\hat{X}_u \hat{Z}_{u+1} \cdots \hat{Z}_{u+k-2} \hat{Y}_{u+k-1} - \hat{Y}_u \hat{Z}_{u+1} \cdots \hat{Z}_{u+k-2} \hat{X}_{u+k-1})\end{aligned}$$

$k = 2, 3, \dots$

$h \neq 0$ の場合 Yamaguchi, Chiba, Shiraishi 2024

最大幅が $L/2$ 以下の局所保存量はハミルトニアンのみ

宣伝 このトピックについての大学院生向け講義動画

Hal Tasaki "Integrable and non-integrable quantum spin chains" (on YouTube)

Advanced Topics in Statistical Physics
by Hal Tasaki

Illustration © Meri Okazaki 2029. All Rights Reserved



主要な定理 ($d \geq 2$)

定理 最大幅が $3 \leq k \leq \frac{L}{2}$ の局所保存量は存在しない

定理 最大幅が $k = 2$ の局所保存量は $\hat{Q} = \eta \hat{H} + \hat{Q}_1$ に限られる (\hat{Q}_1 は各点のパウリ演算子の線形結合)

斜め磁場イジング模型についても同様の定理

Y. Chiba, "Proof of absence of local conserved quantities in two- and higher-dimensional quantum Ising models" (2024)

d 次元 ($d \geq 2$) 超立方格子上の最近接で一様な相互作用の $S = 1/2$ 量子スピン系は、古典イジング模型以外は、非自明な局所保存量を持たない

これらのモデルは、ほぼ確実に「非可積分」(厳密には解けない)

証明のアイディア 2/3

第一段階 幅が $k+1$ の積についての基本方程式

$$k = 3$$

$$\hat{A} \quad \begin{matrix} X \\ Y Z \boxed{Y} \end{matrix}$$

$$\hat{B} \quad \begin{matrix} X \\ Y Z Z X \end{matrix}$$

$$\hat{A}' \quad \begin{matrix} X \\ \boxed{X} Z \boxed{X} \end{matrix}$$

$$\hat{B}' \quad \begin{matrix} X \\ X Z Y Z \end{matrix}$$

$$[\hat{X}_u \hat{X}_{u'}, \hat{A}] = 2i\hat{B}$$

$$[\hat{Y}_v \hat{Y}_{v'}, \hat{A}'] = -2i\hat{B}$$

$$[\hat{Z}_{u'} \hat{Z}_{u''}, \hat{A}'] = 2i\hat{B}'$$

\hat{B} についての基本方程式

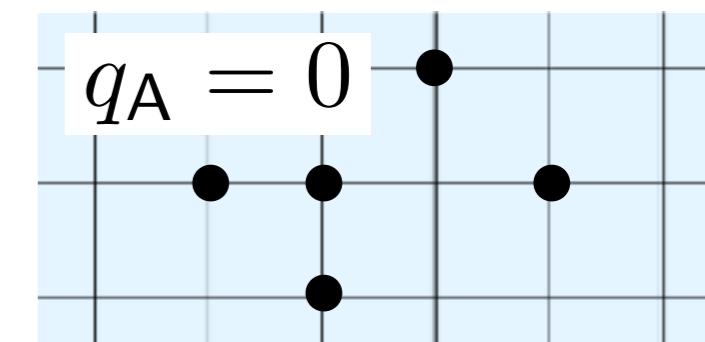
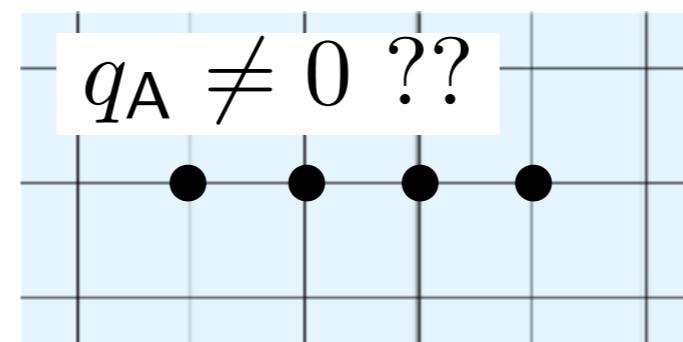
$$2iJ_X q_A - 2iJ_Y q_{A'} = 0$$

$$q_A = \frac{J_Y}{J_X} q_{A'}$$

$\text{Wid}_1 \hat{A} = k$ なら $\text{Supp} \hat{A} = \{u, u + e_1, \dots, u + (k-1)e_1\}$

でない限りは $q_A = 0$

1次元の問題に還元



\mathbb{Z}^d 上の系の演算子の成長と虚時間発展 ($d \geq 2$)

$$\hat{H} = -\frac{1}{2} \sum_{\substack{u,v \in \mathbb{Z}^d \\ (|u-v|=1)}} \{ J_X \hat{X}_u \hat{X}_v + J_Y \hat{Y}_u \hat{Y}_v + J_Z \hat{Z}_u \hat{Z}_v \} - \sum_{u \in \mathbb{Z}^d} \{ h_X \hat{X}_u + h_Y \hat{Y}_u + h_Z \hat{Z}_u \}$$
$$J_X \neq 0, J_Y \neq 0$$

演算子の時間発展

$$\hat{X}_o(t) = e^{i\hat{H}t} \hat{X}_o e^{-i\hat{H}t} = \sum_{m=0}^{\infty} \frac{(it)^m}{m!} \mathcal{L}^m(\hat{X}_o) \quad \mathcal{L}(\hat{A}) = [\hat{H}, \hat{A}]$$

モーメント μ_{2n} の成長

$$\mathcal{L}^m(\hat{X}_o) = \mu_m \hat{X}_o + \text{他のパウリ演算子の積の線形結合}$$
$$\mu_m = 0 \quad (m \text{ が奇数のとき})$$

予想 universal operator growth hypothesis

$$\mu_{2n} \sim \begin{cases} (n!)^2 \alpha^n & \text{カオス系 (非可積分系)} \\ n! \alpha & \text{相互作用する可積分系} \\ \alpha^n & \text{自由粒子系} \end{cases}$$

まとめと課題

- d 次元 ($d \geq 2$) 超立方格子上の $S = 1/2$ XY あるいは XYZ 量子スピン系は (ハミルトニアンと磁化以外の) 局所保存量をもたない **この系は「非可積分」**
- 証明は1次元の場合の素直な拡張。技術的には1次元よりも簡単 **擬1次元系でも同じ結果**
- 同じモデルで、モーメント (およびランチヨス係数) は量子カオス的とされる増大則を示し、虚時間発展は特異性を示す **最低でも無限の2次元格子が必須**

残る課題 (のごく一部)

結果の一般化 (六角格子などの扱い) 、より能率的な証明
準局所保存量が存在しないことの証明
長時間の時間発展と直接に関わる性質の証明